
後ろの正面だあれ

篠原

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

後ろの正面 だ あ れ

【Nコード】

N 8 1 5 3 D

【作者名】

篠原

【あらすじ】

ある日数人の女学生が罰掃除をくらい、しぶしぶ行っていた時・・・ある事件が起こる・・・

かゝごめかごめ

「お前、キモイんだよ!」

「そうそう! 隆也くんに話しかけてんじゃねえつつの!」
「てめえみてるどイライラすんだよ!」

かゝごのなゝかのとりは

「ご、ごめッげほッ! わ、私・・・ッ!」

いついつでやる

「おい、鶴田。今日、わかってんだろっな?」

「う、うん・・・」

「ちゃんとか来ないと、明日ひでえから」
「わかってる・・・」

夜明けの晩に

「あーやっど、罰掃除終った」

「何いってんのタツキ、先生がいたときしかやってなかったクセに」

「そういうミズキだってそうじゃん」

「まあね。鶴田ちゃんが手伝ってくれたおかげでね」

「さて、帰るか」

「鶴田ちゃん、掃除道具さっさと片付けておいてね」

「う、うん・・・」

鶴と亀がすべった

「きゃっ!!」

ドンッ!!

「ひっ!」

ゴロゴロゴロゴロドスンッ!!

「ちよっ!大丈夫亀子^{ひめこ}!!?」

「あたた。・・・うん。なんとか」

「はぁー驚かせないでよ」

「ごめんごめん」

「・・・あれ?そういえば鶴田・・・は・・・?」

そう一人の女子が言い終わる前に、みんなの視線が一つに集まる。
そこにいたのは

「鶴・・・田・・・?」

赤い海に沈み、こちらをこの世のものとは思えないほどの形相で睨
んできている鶴田の姿だった。

「キヤアアアアアアッ!!!!!!!!!!」

その日の事件は、罰掃除の帰り道一人の女学生が”偶然”階段
から足をすべらせ、たまたま打ち所悪く死亡してしまった。と世間
には報じられた・・・が

「真佐子を返してッ!!どうせ貴方達が突き落としたんでしょっ!
!?!」

「鶴田さん！落ち着いてください！アレは事故です！！」

「嘘つかないで！！真佐子いつも怪我して帰ってくるし！！最初はあんなに楽しそうに学校に行っていたのに2学期になってから、死にそうな顔で学校にいったのよ！？絶対何かあったにきまつてるわ！！」

「それは・・・」

「いいから、当日罰掃除をしてたっていう子を呼んで！！！」

「それはプライバシーの関係上」

真佐子・・・鶴田真佐子の親は無論納得した様子はなく、学校まで押し寄せてきたのだった。

それをかぎつけたマスコミも面白おかしく報道し始め、警察や学校側になにか問題があったのではないかと大騒ぎ。

もちろん、そのとき一緒に罰掃除をしていたものたちは、そんなマスコミの餌食にならまいと一歩も家からでれない状況になっていた。

「でさー。つたく、鶴田の親もメンドクサイことしてくれたよねー」

『そうそう。おかげで外出れねえっての！』

「まったくだよ。あーだりー。夜中しかでれねえとかマジありえねー」

『ほんとだよ。・・・あ、そろそろ親帰ってくるから切るね？』

「ん。じゃあね〜」

『じゃーばいばーい』

ガチャ

「はあ、お腹すいたな・・・コンビニにでも行って来るか。ちょうどいい時間だし」

ウィーン・・・『ありがとうございましたー』

「うつ、さつむー。もう秋かー」

「

「ん？誰だろ？ はい？」

「こんにちは」

「どちらさん？ミズキ？」

「私」

「だから誰よ？タツキ？」

「私よ。忘れた？」

「ちよつと、悪戯ならやめてくんない？ウザインですけど」

「もう忘れちゃったのね。悲しいわ」

「いい加減にしろつつてんだよ！！アンタ誰！？」

「しょうがないね。じゃあヒントを教えてあげる」

「は？」

「かゝごめかごめゝ かごのなゝかのとりはゝ いついつであうゝ」

「ちよ、なんなのよ」

「後ろの正面 だ あ れ？」

「ヒッ！！キヤアアアアアッ！！！！！！！！！！」

ドンッ！！！！

しばらくして、とある学校のいじめをやっていたという女子達
が先生や警察などに名乗り上げ、大人しく”あの日”起こった事を
白状した。

それは一つの事件がきっかけとなったのじゃないかとマスコミは
報道していた。

その事件とは・・・いじめの主犯格であつた亀子ひめじが鶴田真佐子とま
ったく同じような死に方をしたのだというもので、実は鶴田の親が
殺したのではないかという意見もあったが、その日鶴田夫婦は警察
署にずっといたので容疑者からはずされた。

しかし警察はなおも事件として捜査をしている。
そのわけとは・・・

その日、亀子の携帯には何者かと話していた記録と・・・

背中にくつきりと血のついた手の跡がみつかったのだ

（後書き）

長くて省きすぎてわかりにくくてごめんなさいorz
ホラーを書こうと思い挫折した作品ですが、これからもっと頑張
ろうと思っているので、温かい目で見てください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8153d/>

後ろの正面 だ あ れ

2010年12月14日20時00分発行